

合わせて二十億六千万円の臨時財源が生まれます。

なお、郡四町と岐阜市、羽島市が合併した場合は、郡四町の合併に比べて、三倍以上の投資可能財源を確保することが可能になります。

投資可能財源をどのように使うか？

このようにして生まれた投資可能財源をどのようにして使うか。それを考える材料として、郡四町の公共施設などの整備水準、行政サービス水準を比較してみましよう。

報告では、八十五項目について、類似都市・団体、郡四町と人口、世帯、面積がほぼ類似している碧南市、それに近隣市と比較しました。その結果、郡四町の公共施設の整備水準および環境衛生面の行政サービス水準は、類似都市と比較してかなり充実していると考えられます。

しかし、道路整備、公営住宅、公共下水道、障害者福祉や児童福祉施設、文化ホールや図書館などの整備がなされていない、または整備率が低いため、新しい市のまちづくりの課題になると指摘しています。

## 羽島郡四町が合併した場合のまちづくり

郡四町合併後の新しい市は、どのような都市になるのでしょうか。

新しい市の人口は六六、五六四人、世帯数は二二、〇四六世帯(いずれも平成十二年国勢調査による)で、現在の高山市と

ほぼ同様の規模になります。面積は三四・〇五平方メートルです。

県が昨年三月に示した「市町村合併支援要綱」では、郡四町の合併は「地域連携型(町村連携型)」に位置づけられています。各町の社会的・文化的つながりに一体性があり、市に移行することで、都市として総合的・計画的な行政運営や福祉事務所の設置による福祉施策の充実が図られ、地域の一層の発展が期待されると書かれています。

報告では、新しい市の将来ビジョンの中で、羽島郡の広域的

役割について、

高次都市機能集積の受け皿  
産業・技術の中核圏域確立への寄与

環境と共生した良好な住宅地の提供

自然、文化資源を生かした観光・レクリエーションの場の提供

豊かな生活文化を支える都市近郊農業地

の五点に整理しています。

また、地域特性として、豊かな自然環境

個性ある歴史・文化資源  
高い生活の利便性

改善が必要な課題として、生活道路整備や安全対策の遅れ

土地利用の混在化  
既成市街地の機能低下  
の三点を挙げています。

報告では、これまでの広域行政の実績、江戸時代以来の歴史、日常的な飲食・レジャー活動などでの結びつき状況などから考えて、郡四町での合併がきわめて自然であると結論づけていますが、今後の地方分権に伴う権限移譲や財源の委譲を考えると、岐阜市をはじめとする近隣市との合併を視野に入れることも必要であると述べています。

### 合併問題のパンフレット

「みんなで考えよう、市町村合併」を配布しました

羽島郡町村合併問題研究会では、市町村合併について、住民の皆さんに考えていただく材料となるパンフレットを作成しました。これには、市町村合併の必要性、合併の問題点とその解決方法、合併の主な手続き、合併による羽島郡の変化、さらに羽島郡における取り組みなどを分かりやすくまとめてあり、今月号の広報といっしょに配布しましたので、ご覧ください。

### 市町村合併を考える羽島郡リレーシンポジウムを開催しました

同研究会と羽島郡町村議会議長会では、住民の皆さんとともに合併問題を考える機会として、リレーシンポジウム「市町村合併を考える」を、川島町を皮切りに、笠松町においては5月30日(木)に開催しました。

シンポジウムでは、岐阜大学地域科学部教授の西村貢氏が「市町村合併とまちづくり」と題して基調講演を行いました。その後「今、なぜ合併が必要とされているのか」と題してパネルディスカッション。コーディネーターに西村氏を、パネラーに(社)地域問題研究所の松村久美秋氏を、また各町の町長や議員代表、住民代表を迎えて、熱心な議論が展開されました。

リレーシンポジウムの内容は、来月号でお伝えします。

詳しくは、企画課(内線234)へおたずねください。